Japan Society for Educational Technology

ショートレター

日本教育工学会論文誌 31(Suppl.), 69-72, 2007

大学生を対象としたSNSのWeb日記によるコミュニケーションの検討†

梅田恭子*・内藤祐美子*・野崎浩成*・江島徹郎*
愛知教育大学教育学部*

先行研究により Web 日記を書き続ける理由が自己表現よりもコミュニケーションにあることが明らかになっている．我々は読者を限定しない一般的な Web 日記と SNS のように読者が限定される Web 日記によるコミュニケーションの形態には違いがあると仮説を立てた．まず本稿では，大学生を対象に SNS と先行研究の Web 日記の結果を比較し，大学生の SNS 利用にはどのようなコミュニケーション形態があるのかを検討した．その結果，SNS では実際の友人との交流を目的とした Web 日記によるコミュニケーションがあることが示唆された．

キーワード：SNS，Web 日記，Blog，コミュニケーション，大学生

1. はじめに

近年，個人が作成する Web サイトが増加し，これを介したコミュニケーションが盛んに行われている．個人の Web サイトの典型的な掲載内容に日記があり，それを読んだ他者が内容に対するコメントを書き，作者はそれに返答するという流れが，Web 上の日記での一般的なコミュニケーション方法となっている．以下，Web 上での日記を Web 日記と書く．

川浦ら（1999）は，Web 日記を書き続ける理由が，自己表現よりもコミュニケーションにあることを明らかにしている．ただし，これらの研究でいう Web 日記は，一般的な Weblog（以下 Blog）のように読者を限定しないものが対象となっている．ところが，近年，Blog 以外にも Web 日記の機能を持つ Social Networking Service（SNS）が出現した．SNS とは，人々のつながりを重視して，趣味や嗜好・仕事関係などの構築を社会的ネットワークをインターネット上でサポートするサービスのことを言う．日本では mixi (2007) が大きなシェアを誇り1000万人以上（2007年５月20日現在）が利用している．Blog も SNS も，日記を書き，読み手からのフィードバックによって交流するという形は同じであるが，一般的に違うところとして，SNS ではその設立の意図から日記の読み手が限定されるところにある．

そこで，筆者らは同じ Web 日記でも SNS では独自のコミュニケーションの形態があるのではないかという仮説を立てた．そのためにまず本稿では①大学生を対象に SNS と先行研究の Web 日記利用の結果を比較し，②上記①が異なった結果であった場合，大学生の SNS 利用にはどのようなコミュニケーションの形態があるのかを検討する，ことまでを目的とする．この②の結果を利用して，それぞれにどのような特徴があるのかについては次の検討課題としたい．本研究では，SNS の代表として国内最大である mixi を対象とした．また本稿では，両者を区別するために，以下，読者を限定しない個人の Web サイト上の Web 日記を Blog と書き，SNS のそれを SNS の日記と書く．

2. Web 日記に関する先行研究

Web 日記に関する先行研究として，川浦ら（1999）は，Web 日記の日記形式を内容と指向性から以下の４つのタイプ（以下，日記タイプ）に分類している．すなわち，自己を意識した事実の記録（備忘録），読者との関係を意識した事実の記録（日誌），自己を意識した心情の表現（狭義の日記），読者との関係を意識した心情の表現（公開日記）である．調査の結果，極端に偏ることなく４タイプに分かれた．そしてこの理由を日

2007年4月2日受理

† Kyoko UMEDA*, Yumiko NAITO*, Hironari NOZAKI* and Tetsuro EJIMA* : A Study of Communication Among University Students through Web Diary on SNS

* Faculty of Education, Aichi University of Education, 1, Hirosawa, Igaya-cho, Kariya-shi, Aichi, 448-8542 Japan

NII-Electronic Library Service

Japan Society for Educational Technology

記の効用，自己意識等との関連要因から調べている．

まず，ここで言う日記の効用とは，Web 日記を書くことによって作者が得られる２つの効用のことを指す．日記を書くことによって自分自身の理解が促進し，緊張・不安感情の解放ができている「自己に向かう効用」（対自己効用）と，他者を理解すると同時に，自分を理解してもらえる関係を作れる「関係に向かう効用」（対関係効用）である．また，自己意識とは，自己に注意を向けやすい２つの性質のことを言い，「公的自己意識」と「私的自己意識」に分けられる．公的自己意識とは，他人から自分がどのように見られているかに意識を向けやすい傾向であり，これに対し私的自己意識は，自分の感情など，自分自身の内面に注意を向けやすい傾向のことを言う．

また，上記に加え，Web 日記に対する好意的なフィードバック，Web 日記に対する満足度，自分自身が日記によく表現できているという自己表現満足度，Web 日記を通して他者に自分のことが理解されているという被理解満足度などが Blog の Web 日記を書き続ける意向（継続意向）に関連があるとされている．

本研究では，まずこれらの Blog の研究結果（川浦ら 1999）と SNS の日記の調査結果を比較することとした．

3. 調査と結果

3.1. 調査の概要

被験者：大学生292名．うち有効回答数290名.(男性165名，女性125名.)

調査実施期間：平成18年10月下旬から11月中旬.

質問紙：SNS 利用者（すべてが mixi 利用者）と非利用者用の２種類の質問紙を作成した．利用者用の質問紙については，下記3.3.節で比較した６項目については川上ら（1988）の調査票と同じ質問項目を用いた．それに，SNS の機能や SNS 上でのコミュニケーションの項目を新規追加し，計41項目となった．

手続き：上記２種類の質問紙を配布し，該当する方に回答してもらい，両方とも回収した．尚，本稿では利用者の結果のみを述べる．

3.2. SNS の利用概況

SNS 利用者は，155名（53.4%）であった．男女比は，男性77名（49.7%），女性78名（50.3%）であった．SNS の利用状況は「ほぼ毎日」が43.9%，「２，３日に１回」が35.5%であった．

利用者が SNS を始めた理由（複数選択）は，「友人がやっていて楽しそうだったから」(46.5%)，「友人に誘われてなんとなく」（62.6%）と，身近な友人の影響によって始めたという回答が圧倒的に多かった．また，SNS の中での友人の数は平均44.8人であったが，１人から158人と幅が広かった．実際の友人（リアル友）とインターネット上で知り合った友人（ネット友）の比率については，一人もネット友がいない利用者が88名（56.8%）にのぼり，ネット友の人数がリアル友より多いのは６名（3.9%）であったことから，SNS 上で知り合う他者との交流より，リアル友と SNS 上でも交流を深めることが多いと推測される．

3.3. Blog と SNS の比較

3.3.1. 日記タイプについて

SNS の日記も Blog と同様にどの日記タイプにも分かれおり，傾向も同じであった．すなわち Blog では「他者に向けて」(47.2%)が「自己に向けて」(38.7%)よりやや多く，「事実中心」(48.5%) が「心情中心」(37.4%)よりやや多いという結果がでていた．SNS でも事実中心(55.5%)が心情中心(32.3%)より多く，他者(46.5%)が自己（41.3%）より多かった．

一方，日記タイプと自己意識の関連については，公開日記が公的自己意識が高いということは Blog と一致したが，それ以外は SNS の日記タイプと自己意識に明確な関係が見られなかった（**表１**）．

3.3.2. 日記の更新頻度

Blog では，日記を書く間隔は「ほとんど毎日」が45.4%とほぼ半数を占め，「週に２～３日」17.0%，「週に１回程度」9.8%と定期的に更新する人が７割を超える．SNS では，「ほぼ毎日」が5.8%であり，毎日の更新率は非常に低い．また「週に２～３日」16.1%，「週に１回程度」12.3%と定期的に更新する人が約３割と Blog に比べて少ないことがわかる．反対に「思いついたときだけ」は Blog では9.0%であるのに対し SNS は45.2%にのぼり，SNS の方が不定期な更新であることがわかる．

3.3.3. 継続に対する意識

書くことが習慣化されている人が Blog では44.3%，

表１　日記タイプと自己意識特性

表現内容		事実		心情	
指向性		自己	他者	自己	他者
日記タイプ		備忘録	日誌	狭義の日記	公開日記
私的自己意識	Blog	低い	低い	高い	高い
	SNS	—	—	—	—
公的自己意識	Blog	—	低い	—	高い
	SNS	低い	—	—	高い

NII-Electronic Library Service

Japan Society for Educational Technology

SNSでは11.0%，いつやめても構わないがBlog48.5%，SNS73.5%となっており，SNSの方がいつでもやめて構わないと思っている人が多いことがわかる．

3.3.4. Web日記がWebサイトに占める重要度

Webサイト全体に占めるWeb日記の重要度は，サイト全体を100とした場合どの程度かという問いに対しては同じような結果が得られた．具体的には50以上と答えた回答者がBlogでは46.2%，SNSでは51.6%，そのうち90%以上がそれぞれ12.5%，10.3%となった．また，両者とも全体をみると各カテゴリーに分布しており，日記を中心としたものから，日記の比重の少ないものまで多岐に渡っている．

3.3.5. 読者の意識度

読者への意識も「意識している」「やや意識している」Blog61.3%，SNS62.6%とあまり変わりはなかった．ただし，「意識している」のみに限定すると，Blogは34.5%，SNSは17.4%であり，「意識していない」「あまり意識していない」がBlogは31.5%，SNSは16.2%であり，Blogの方が読者意識度が両極化している．

3.3.6. BlogとSNSの満足度

全体的な満足度については，Blog76.9%，SNS66.5%が高いと答えており，両方とも高い傾向であった．自己表現満足度は，Blog56.5%，SNS38.7%が高いと答えた．一方，不満足と答えたのがBlogが8.7%であったのに対し，SNSは19.4%にものぼり，SNSは低い人も多いことがわかった．被理解満足度については，Blogでは34%，SNSでは22.6%が高くほぼ同様な傾向であったが，SNSでは，どちらでもないと答えた人が60.6%も占めており，Blogの32.9%と比較しても多かった．

3.4. 比較結果の考察

上記よりSNSでは日記の更新頻度や継続に対する意識がBlogに比べて低いことがわかる．一方，読者意識度や日記の占める重要度はBlogと同様に高いという傾向にあることがわかった．つまり単純にWeb日記の重要度が低いので更新頻度や継続に対する意識が低いというのではないことがわかる．

また，日記タイプの傾向は良く似ているが，自己意識との関連では違いがあった．Blogでは狭義の日記群は私的自己意識が高く，公開日記群は私的・公的意識がいずれも高いなど感覚的にも納得できる結果となっているが，SNSでは，公開日記のみほぼ同じ傾向であるが，それ以外は明確な関連は見出せなかった．

満足度は両方とも高い傾向があるが，比較すると全般的にBlogの方が高いことがわかる．Blogの結果では，対関係効用を中心とする関係では，Web日記の公開は読み手との関係においてメリットがあると感じるほど，高い被理解満足度を感じ，日記の継続意向につながっていた．しかしSNSでは被理解満足度がどちらでもない人が多く，これについても明確な結果がでていない．

以上から，全般的にSNSの方があいまいな点も多く，これまでのBlogの結果と同じといえないことがわかった．その理由として実際の友人とのコミュニケーションという新たな視点があるからだと推測される．そこで，次章ではどのようなタイプがあるのかを検討する．

4. 大学生のSNSのコミュニケーションタイプの検討

4.1. 自由記述によるコミュニケーションタイプ分類

SNS独自のコミュニケーションについて検討するために，大学生144名に対して調査を行った．利用者にはなぜSNSを利用し日記を書くのか，非利用者にはなぜSNSを利用しないのかについて自由記述で回答をしてもらった．その結果，ちょうど半分に当たる72名がSNS（mixi）を利用しており，利用目的と日記の形式により，次の３つのタイプに分類されることが示唆された．

(a) 自分自身を周囲に理解してもらいたいタイプ（自己開示タイプ）12名（16.7%）

このタイプの利用者はSNSやその日記を通して，自分自身をありのままに表現し，「自分の言動に対する意見を他者に求めたい」等，自分を読み手に理解，評価してもらいたいと思っている．日記は，自分の素直な姿を表現し，読み手に意見を求めるような内容を書く．

(b) 友人との交流を第１の目的と考えるタイプ（交流主体タイプ）28名（38.9%）

このタイプの利用者は，SNSを友人と交流を深める場として捉え，日記には読み手から必ず反響が得られるネタ的話題を取り上げている．「友人と楽しく会話できるような場所にしたい」「友人からコメントが来ると，日記を読んでもらえているのだという喜びがでる」等，友人からのフィードバックを期待する気持ちが強く，友人との親交を深めることを目的としている．

(c) 日記から友人のことを知りたいタイプ（友人情報取得タイプ）18名（25.0%）

このタイプの利用者は，SNS上での日記を友人の近況や状態を知ることができる手段として捉えている．意見としては，「友人の日記がどういうものか興味がある」「友人が何を考えているのか，どういう状況なのか知りたい」等がある．友人の日記はよく見る一方，自分の日記はあまり更新しておらず，「他人に日記を

NII-Electronic Library Service

Japan Society for Educational Technology

見られることに抵抗がある」「どう書いたらよいかわからない」という意見をもっている．自分の日記には構わず，友人の日記を読み交流し，友人のことを深く知ることを目的としている．

尚，３つのタイプに複数当てはまるという回答者が８人いたが，より強い利用目的であると判断したタイプの方に分類した．また，いずれにも当てはまらない回答者が14名（19.4%）おり，その中には友人とのコミュニケーションを全く目的としていない利用者や，独自の使い方をしている利用者が含まれる．

4.2. SNSのコミュニケーションタイプに関する考察

大学生の SNS 上でのコミュニケーションを自由記述で分類したところ，主軸が友人との交流にあるか，自分にあるかで大きく二つに分かれ，友人との交流にある方がさらに二つに分類された．これは，3.2.節で述べたように SNS を始めた理由として，身近な友人の影響が大きい人が多いことからも予想できる結果となった．また，日記から得られる効用の結果もこれを支持している．すなわち SNS では，日記から得られる効用として「自分のことを書くことでほかの人もその人自身のことを知らせてくれる」を選択した人が54.8%と最も多かった．一方，Blog では「自分に共感してくれる他者と出会い親しくなれる」という対関係効用を感じている人が最も多く７割を超え，SNS では43.2%であった．

さらに確認のために，上記３章で行った調査の結果を，日記を全体に公開しているグループと友人に限定しているグループに分けたところ，前者が94名（60.6%），後者が54名（34.8%）であった．前者では対関係効用が高い人が有意に多く，本名を公開している人が有意に多かった．後者は私的自己意識が高い人が多く，本名を非公開にしている人が有意に多かった．前者と後者には差が見られ，前者はタイプ(a)の特徴を表しているように推測され，後者はタイプ(b)を表しているように推測される．

以上より，大学生の SNS での Web 日記は，自己表現よりもコミュニケーションにあることは Blog と一致しているが，何よりも実際の友人との交流に強く主体をおくというタイプが SNS には存在し，Blog に求められてきたコミュニケーションとは異なっているのではないかということがわかった．

5. まとめと今後の課題

大学生を対象に Web 日記について Blog の先行研究と同じような調査を SNS で行ったところ類似点や相違点が見られ，実際の友人とのコミュニケーションを主目的とする SNS 独自のコミュニケーション形態があることが示唆された．今後は自由記述で得られた３タイプのコミュニケーションタイプがあるという仮説のもとに３章の調査を再び行い，SNS のコミュニケーションタイプの特徴を明らかにしていきたい．

最後に，本研究で比較した川浦らの調査は1997年に行われており，Blog ツールで作成された Web 日記以前の Web 日記が対象である．川浦らはこれらの研究をまとめた本（山下ら 2005）の中で，Web 上に個人が蓄積していくログという点で共通してるものの総称としてウェブログという言葉を用いており，本稿もそれにならい Blog と表現した．しかし，本研究では Blog ツール以前の Web 日記と，SNS の Web 日記の比較となっており，ここに本研究の限界がある．今後は言葉の再定義や，Blog ツールも含む Web 日記との比較も行いたい．

参 考 文 献

川上善郎，川浦康至，山下清美（1998）サイバー空間における日記行動報告書．
http://homepage2.nifty.com/rumor/nikki/nikki.html

川浦康至，山下清美，川上善郎（1999）人はなぜウェブ日記を書き続けるのか．社会心理学研究，**14**(3)：133-143

mixi 株式会社 http://mixi.co.jp/

山下清美，川浦康至，川上善郎，三浦麻子（2005）ウェブログの心理学．NTT 出版，東京

(Received April 2, 2007)

NII-Electronic Library Service